

海賊行為等による被害事例（2003年）

我が国関係船舶について報告されている事例（参考例）

[事例 1]

＜自動小銃による銃撃事案＞

日中、入港のため、港の沖合で漂泊して、パイロットの乗船を待っていたところ、本船の後方より、5～6名が乗ったスピードボートが接近し、本船の中央付近に横付けした。その直後、突然、同ボートから居住区や船橋に向けて自動小銃により約40発の銃撃が行われた。これを受け、本船が直ちに航走を開始したため、海賊は乗船できず、退散した。この間、3～5分程度であった。

船体に銃痕を残すこととなったが、幸いにして乗組員に被害は無かった。

[事例 2]

＜船内における発砲事案＞

夜間航行中、サバイバルナイフと銃器で武装した7名の海賊が乗り込み、船内において天井に向けて発砲して、停船を要求した。その後、船用金及び船長の私物等を奪い、約35分後に賊は退散した。乗組員に怪我等はなかった。

[事例 3]

＜錨泊中に襲撃され縛られた事案＞

夜間港外にて錨泊中、ボートに乗りナイフを所持した8名の海賊がフックを使い船首側からよじ登って侵入した。二等航海士と甲板手が船内外の見回りをしていましたが、船首甲板部で海賊に遭遇し、海賊に捕まって縛り上げられた。海賊は、甲板倉庫のドアを破壊し、救命いかだ、係留ロープ、救命胴衣等約130万円相当を奪い、再び船首部からボートに移り移って逃走した。

[事例 4]

＜錨泊中に船首甲板に侵入された事案＞

夜間、港外において錨泊して荷役待ち中、巡視中の乗組員2名が、船首甲板を歩いている2名の賊を発見し、直ちに当直航海士に通報した。同航海士が汽笛を吹鳴するとともに、船内外への海賊侵入を知らせる音声放送を実施したところ、賊は退散した。その後、船内を自衛用の装具を身に付け、乗組員において慎重に調査したところ、救命いかだ1基が失われていることを確認するとともに、賊の残した着衣を発見した。